

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 Foster

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%		
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%	お子さんの安全面を考慮し多めに配置している点。	お子さんの人数に対して多めに配置をさせて頂いており、引き続きお子様の安全面の配慮の元、配置して参ります。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	83%	17%		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%		
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	33%	67%		
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	50%	50%		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	50%	50%		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	33%	67%		・オープンしまだ安定しない時期の為、開催数が低いが、今後研修会の定期開催と職員への周知が早期改善点である。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	50%	50%		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	33%		
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	50%	50%		
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	67%	33%		
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%	お子さんの好きな遊びを職員みんなで意見を出し合い、応用し取り組んでいる。	お子さんの年齢にあった楽しめるプログラムを都度取り入れる事を引き続き継続していく事が課題である。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	67%	33%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	83%	17%		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	50%	50%	送迎対応等もあり、終了後、すぐに取り組めない時は次の日の朝のミーティングで共有している。	送迎対応のお子さんが多く、職員会議の時間に限りが出てくる為、内容を濃い内容に出来るよう、日頃からの職員同士の情報共有が課題である。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	67%	33%		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	67%	33%		
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	83%	17%		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	67%	33%		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	83%	17%		
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	83%	17%		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	50%	50%		移行支援関係なく、現在取り組ませて頂き情報共有を行っている為、今後は移行支援としての活動も積極的に取り組ませて頂く事が課題である。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	50%	50%		幼稚園保育園を中心に取り組ませて頂いていた為、小学校や特別支援学校はこれからの取り組みである。移行支援として今後活動的に取り組んで行く事が課題である。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	17%	83%		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	33%	67%		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	33%	67%		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	67%	33%	送迎時に直接保護者様に様子を伝える事で温度感も一緒に伝えられるよう工夫している。	決められた時間の中で、お子さんの様子をより分かりやすくお伝え出来るよう話し方の工夫が課題とし、保護者様との信頼関係構築に努めて行きます。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	33%	67%			
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	33%			
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	67%	33%			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	83%	17%		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	67%		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	67%	33%		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	83%	17%		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%		
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33%	67%		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	17%	83%		オープン期間まもない為、マニュアルの把握のみでの取り組みになる為、早い段階での訓練実施に取り組み改善致します。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17%	83%		オープン期間まもない為、今現在1回のみ実施。年間で定期的に開催し安全配慮に努めて行きます。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	83%	17%		
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	100%	0%		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	67%	33%		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	33%	67%		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	50%	50%		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 Foster 保護者等数(児童数) 19名 回収数 8名 割合 42%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	63%	13%	13%	13%	いいえにしたが、ビル内なのでしょうが、いいえとは思いません	お子さんの安全面を考慮し、出来るだけスペースの中でも楽しんで過ごしていただけるよう活動内容の工夫に今後取り組みで参ります。
	2 職員の配置数や専門性は適切である	88%	0%	0%	13%	職員さんの紹介のお手紙が年1回でも良いのであると分かりやすいです(資格・主な担当など)	貴重なご意見を頂き有難うございます。施設のお知らせ等を含め、職員さんの紹介のお手紙発行を前向きに検討させていただきます。
	3 生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	88%	0%	0%	13%		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	100%	0%	0%	0%		
適切な 支援の 提供	5 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	75%	0%	13%	13%		
	6 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	75%	0%	0%	25%		
	7 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	75%	0%	0%	25%	支援計画の作成をしてもっていない	貴重なご意見頂き有難うございます。お手元に届いておらず大変申し訳ございません。至急確認し保護者様のお手元に届きますよう対応させていただきます。
	8 活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	88%	0%	0%	13%	自宅では出来ない体験をさせていただいています	貴重なご意見を頂き有難うございます。お子様が楽しく学べる、記憶に残る療育を目指して取り組ませて頂いております。引き続きこういったお声を頂けるよう励んで参ります。
	9 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	38%	0%	25%	38%		
10 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	100%	0%	0%	0%			
11 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	75%	0%	13%	13%			
12 保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニングiv等)が行われている	13%	13%	25%	50%	・就学に向けて、他の保護者や先生方と情報共有が出来る機会があれば助かります ・日が浅くまだです ・毎回どのようなトレーニングをしたか等のキックバックがない	ご案内が行き届いておらず申し訳ございません。情報共有できる場として、今後お手紙等でご相談がある場合の相談先や相談方法のご案内をさせて頂く事で、保護者様が発信しやすい環境設定に努めさせていただきます ・毎回訓練利用時に保護者様に何の訓練内容を取り組み、どのような様子だったか、どの内容が苦手や得意だったか等、背景がわかりやすく伝わるようなお伝え方法が出来るよう改善し努めさせていただきます。	

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 Foster

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	83%	17%		
	2	職員の配置数は適切である	83%	17%		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	67%	33%		
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	50%	33%		
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	50%	50%		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	33%	67%		
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	33%	67%		
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	17%	83%		・オープンしまだ安定しない時期の為、開催数が低いが、今後研修会の定期開催と職員への周知が早期改善点である。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	50%	50%		
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	67%	33%		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	83%	17%		
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	100%	0%		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	83%	17%		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	50%	50%		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	33%	67%	送迎対応等もあり、終了後、すぐに取り組めない時は次の日の朝のミーティングで共有している。	送迎対応のお子さんが多く、職員会議の時間に限りが出てくる為、内容を濃い内容に出来るよう、日頃からの職員同士の情報共有が課題である。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	83%	17%		
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	50%	50%		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	67%	33%			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	67%	33%	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	50%	50%	今後密に連絡を取り、連携を取っていき、先生側や保護者様との信頼関係構築にも繋げて参ります。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	67%	33%	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	33%	67%	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	50%	50%	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	33%	67%	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	33%	67%	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	33%	67%	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	67%	33%	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	33%	67%	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	67%	33%	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	67%	33%	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	33%	67%	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	67%	33%	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	67%	33%	
	35	個人情報に十分注意している	100%	0%	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	33%	67%	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	17%	83%		オープン期間まもない為、マニュアルの把握のみでの取り組みになる為、早い段階での訓練実施に取り組み改善致します。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17%	83%		
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	50%	50%		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	50%	50%		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	67%	33%		
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	67%	33%		

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公

公表:令和 年 月 日

事業所名 Foster 保護者等数(児童数) 8名 回収数 7名 割合 87%

	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	86%	14%	0%	0%		
	2 職員の配置数や専門性は適切であるか	86%	0%	0%	14%		
	3 事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	14%	14%	14%	57%	いつも気にかけて見ていなかったのがこの回答になりました	・貴重なご意見頂き有難うございます。事業所内は出来るだけお子様の支援に配慮させて頂き、段差等がないよう取り組ませて頂いております。またお子様の障がい特性上の安全面を考慮し今後通所して頂けるお子さんが安心して通所して頂けるよう施設内での配慮可能な部分のお伝えを事前にさせて頂き、安心感に繋がるよう繋げて参ります。
適切な 支援の 提供	4 子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	86%	14%	0%	0%		
	5 活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	86%	14%	0%	0%		
	6 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	14%	0%	14%	71%	この取り組みに関してはまだ知らなかったのがこの回答になりました	・オープンしてまもない為、現在このような機会がなく、今後このような機会を作り、お子さんのいろんな環境を知る事へのきっかけに繋げていけるよう取り組んで参ります。
保護者 への 説明等	7 支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	100%	0%	0%	0%		
	8 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	86%	14%	0%	0%		
	9 保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	57%	14%	14%	14%		
	10 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	0%	14%	29%	57%	父母の会や保護者同士等の開催に参加した事がないので	・貴重なご意見を頂き有難うございます。保護者様と集まりたい方針の保護者様と個人で活動されたい保護者様と様々ですので、前向きに検討させて頂きたいと思っております。
	11 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	71%	0%	0%	29%		
	12 子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	100%	0%	0%	0%		
	13 定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	43%	14%	14%	29%		
	14 個人情報に十分注意しているか	71%	14%	0%	14%	入口近くにお子さんの名簿のファイルを置いているが、個人情報の配慮してほしい	・貴重なご意見を頂き有難うございます。配慮が不足大変申し訳ございません。早急に位置を変更致しました。今後もそのような配慮に気を引き締め取り組んで参ります。

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	71%	0%	14%	14%		
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	43%	0%	14%	43%		
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	100%	0%	0%	0%		
	18	事業所の支援に満足しているか	71%	29%	0%	0%	言語聴覚士の訓練が受けられないのが残念です。又、未就学児と小学生が同時に療育しているため、小学生の場合、集団療育の内容に物足りなさを感じます。(子どもが言っています)	<p>・貴重なご意見を頂き有難うございます。言語聴覚士の先生体調不良でお休みの期間があり、その間言語の訓練のご案内が出来ず大変心苦しく思っております。4月から常勤の新しい言語聴覚士の先生が来て下さるので、毎回訓練を受けて頂く事が出来ます。お休み頂いた分お子さんの言語療育にしっかりと取り組ませて頂きます。</p> <p>・集団療育に関して、貴重なご意見を頂き有難うございます。異年齢の集団活動に関して、同級生はもちろんの事、自身と違う年齢のお子さんとは活動を行う事で、きずきを増やしていく事、いろんな年齢のお子さんと活動することでのコミュニケーションの機会を作り、幅を広げて行くなどの意味を設けています。そこでの環境でしか得る事が出来ない経験の時間を今後も作っていかれたらと思っておりますので、さらに内容を工夫し、そのような声が減っていくよう繋げて参ります。</p>

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。